

れを待てていて、挑戦しました。思い通り
の形にならず、不格好な形になりました。諦
めてお皿に置くとうとしたその時、母がそのお
にぎりを手に取り、パクッ」と口に運びました。
そして続けました。
「おいしいよ」
と笑顔で声をかけてくれました。きくと私を
喜ばせるために言ってくれた言葉だと思いま
すが、その時の私はすごくうれしく、達成感
を味わいました。決して私の握る技術は優
れていなかっただものの、ご飯のおいしさ、そ
して、母が感じ取ってくれた思いが、更にお
にぎりをおいしく仕上げてくださいました。
そんなご飯の思い出を持って私は、ご飯が私
たちに届くまでのことを考えてみました。農
家の方が稲刈りをするまでに多くの時間を費
やし、体力を使い、そして、精米し、業者へ
と卸します。それから消費者である私たちが
購入し、食します。文章で表すと簡単に聞こ
えますが、口にすると、まるで多くの方が米に携

